

第3回あさご未来会議 意見内容

1 多様な働き方（起業・就業）

区分	キーワード	具体的な取組みアイデア・進めたいこと	進めていく上での留意事項等
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校でのキャリア教育の推進 ● 主体的なキャリア選択 ● 朝来市で働く・活躍することがイメージできる体験 	<p>【子どもの頃からのキャリア教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市の魅力・企業について中高生に知ってもらう機会づくり。 ● 小・中・高のときから仕事に関するような授業を。実際に経営者から話を聞くという場面をもっと増やしていく。（高校生） ● 職業体験の数・種類を増やす。 ● トライやるウィークをもっと事業所を知る機会に。 ● ASAGOiNG ゼミ U-18 しごとゼミで社会の仕組みを体験。さらに学校の授業などで学びをつなげる。 ● 高校生へのキャリアトークカフェ。多様な市内企業や働き方を知る機会。（複数） ● キャリアトークカフェのさらなる推進。（複数） ● 子どもの震度選択の拡大（進学、就職、起業）。 ● 子どもの頃から社会体験活動を。 ● 高校の行事に地元企業に入ってもらおう。 ● 工業高校のインターンシップ制を参考にする。 <p>【経済・経営について学ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学生・高校生向けに経営について学ぶ機会を作る。（高校生）（複数） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生は情報が入ってこない。大人向けの情報で止まっている。 ● キャリアトークカフェや ASAGOiNG ゼミ U-18 しごとゼミの職種等のセレクトに高校生の意見を反映させる。 ● 中高生の職場体験をニーズから選んでいけるように。 ● 働くイメージを多様化させていくこと。 ● 働くイメージを柔軟にする。

		<ul style="list-style-type: none"> ● お金の教育、経営の教育。 ● お金の教育の授業をする。(移住者)(複数) ● お金教育のススメ。お金の価値、経済ってどういふこと?について夏休みの宿題などで学ぶ。 ● 自分の給与がどうやって生み出せるのかが学べる経営の考え方を学ぶ。 	
起業	<ul style="list-style-type: none"> ● 起業マインドを育む機会づくり ● 起業のハードルを下げる入口支援・起業支援 	<p>【起業マインド等を育む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小・中・高で起業について教わるようにすること。(高校生) ● 高校生に起業・経営について学ぶカリキュラムや機会を。 ● 学校などで小・中・高・大学生向けの「起業のススメ」講座を開催。 ● 高校生の起業したい人と商工会をつなげる。 ● 起業・創業者を若年者にもっと知っていただく機会づくり。 ● 起業しやすい環境づくり。 <p>【起業に向けた学びの場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 起業セミナーを高校生にも周知する。 ● 学生や育児中の女性への生活設計や起業ノウハウを学べる場の提供。 <p>【起業支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高校生・若者が起業の相談ができるように。 ● 「空き家バンク」とは別に、「空き店舗バンク」をやる。(移住者) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 飲食起業がないなら自分で作ればいい。こう思う人が多ければまちが元気になる。

		<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家の活用。 ● 起業サポートの充実。(高校生) ● プチ起業の推進。(移住者) ● ネット環境の整備。(高校生)(複数) 	
若者の就業	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝来市で働くイメージづくり ● 若者の価値観にあった職場環境づくりと情報発信 	<p>【職場環境づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 離職後も朝来市で働くしかけづくり。 ● 社員へのワークライフバランスの意識啓発。 ● 家庭の中でのワークライフバランス教育。 <p>【雇用のマッチング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 朝来市で仕事している魅力ある大人(起業者・就業者)の方々と若者が触れ合える場づくり(イベント、機会、サークル等)。 ● 様々なイベントで働き方等の情報発信。 ● 合同企業説明会の継続開催。地域の魅力も同時に発信。(移住者) ● Uターンの魅力も同時に発信する。 ● 朝来市や但馬などでの企業説明会開催。場所・時期を工夫し、ターゲットを絞る。 ● 企業説明会等の情報の周知方法の工夫(広報誌掲載、小中学校へも周知)。 ● 若者の仕事の情報を色々な広報媒体で提供する。 ● 学校の先生と民間企業で働く方々との交流会、情報共有・交換会の実施。 ● それぞれの企業のサービス内容を表示することが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な価値観(個人・年代)があることを認識することが大切。 ● 企業の話伝える際に、そもそも学生がどういう話を聞きたいかというニーズを把握する。 ● 「障害者だから」で採用の拒否をやめて欲しい。活躍できる分野はあるはず。(高校生) ● 企業の情報量が少ない。 ● Facebookはあまり見られていないので、発信ツールの再考を。Twitterなど。 ● 情報発信の仕方の工夫。 ● 企業情報の発信の仕方を、採用条件だけでなくその企業のストーリーを伝えてみては。(移住者) ● 希望する職種の求人数が少ない。 ● 朝来市での職業が限られていること。(高校生) ● 企業数が少ない、働く選択肢が少ない。 ● 夢を叶える手段が市内にない(資格取得等)。 ● UIターンでなくとも希望の職種がない。 ● 田などへの愛着がなく捨てる。育成が出来ていない。 ● 朝来市がやっていること(奨学金制度、職場見学、合同説明会など)が見えない。

		<p><u>【情報発信】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若者の価値観の違いを考慮した情報発信。 ● 地元企業の若者への情報発信。 ● 市内企業の魅力の発信。 ● 情報発信。(移住者) ● 起業の情報発信 (インスタ、ツイッター)。 ● 高校生や若い人に情報をもっと届けるように。 ● 若い世代への情報発信。(高校生) ● 大学生・高校生への情報発信、小中学生に対する情報発信。 ● Twitter で情報発信。 ● SNS を活用する。(高校生) (移住者) (複数) ● SNS の発信にはターゲットから絞る。 ● 他企業に向けての朝来市の魅力のアプローチ。(高校生) ● 市内企業情報を発信し、企業の魅力発信を応援。 ● 広報紙を若者向けメディアに。(移住者) ● あさぶらの充実。 <p><u>【働きやすい環境・定着する職場づくり】</u></p> <p>働き方改革。(高校生)</p> <p><u>【Uターンの中途採用】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● Uターンしたい人の相談窓口設置。 ● Uターンして中途採用の支援策。 <p><u>【就業場所の確保】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 優良企業の誘致、工業団地の開発。 	
--	--	--	--

<p>女性が働きやすい環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てママが働きやすい環境づくり ● 子育てママが社会に出やすい環境づくり ● 女性の力が発揮できる社会 ● 企業連携による全体的な意識変革 	<p>【職場環境づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お母さんの働き方改革。 ● 育休明けや子育て期間の時短勤務、時間休を。 ● 時間休がとれるなど働きやすい環境づくり。 ● 安心して子育てができる職場づくり（育休取得対応、時間休などが可能な配置）。（高校生） ● 子育てママの働きやすい働き方。（行きたいときに行ける、子ども連れで一緒に働く。） ● 子どもを連れながら働ける企業があれば働きやすい。 ● 子育て世代が働きやすい環境づくり。託児所・子どもを預ける場所の確保。（移住者） ● 女性が働きやすい環境＝男性も働きやすい環境。（複数） ● 男性も働きやすい環境づくり。意識改革。 ● 男性の働きやすさ改革。 ● 男性も休みがとりやすい職場環境づくり。（複数） ● 男性の育休取得の推進。 ● ワークライフバランスの企業間連携共有。 ● 他の会社の待遇や福利厚生を共有。 ● 就業規則、社内ルールの整備。 ● 企業同士の情報共有。（複数） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「男性だから」「女性だから」で職場内の仕事のすみわけをしない。（高校生） ● 「高校生だから」「女性だから」と決めつけず、「やっpegらん」という大人の気持ちが大事。 ● 男女、年齢などの属性のしぼりを外し、個性を活かす職場づくり、仕事づくりに。 ● 子どもがいると短時間勤務でないといけない。 ● 育休明けは、同居や近くに住む祖父母などの手を借りないと母親ばかりに負担が生じてしまう。 ● 赤ちゃんがいると時間と場所に縛られるのはしんどい。 ● 子どもと一緒に動くことができれば動きやすい。 ● 女性のみが子どもを見るという考え方。 ● 社会とつながりたいが、お母さんとしての時間も大切にしたい。 ● 女性の働きにくさの原因とは何かを考える。 ● 悪い意味での地域の目。（移住者） ● 家長だけが参加する地域ではだめ。
----------------------	---	--	---

		<p><u>【多様な就業スタイル】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 育児中の働き方（選択肢）を増やせるよう企業も工夫する。 ● 働き方の多様化を市内企業がバックアップ。 ● 女性の働き方の多様性が実現できるようにする。 <p><u>【企業の女性活躍】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 男女の職務内容が交わるように。（移住者） ● 男女の職種の区別をなくす。 <p><u>【家庭・地域等における男女共同参画】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 育休明け、夫の家事・育児負担の割合が大切。 ● 男性も育児に。 ● 若者・女性の社会参加・地域参加が大事。機会を作る。 ● 赤ちゃん先生をもっと知ってもらおう。 ● 赤ちゃん先生はお母さんと社会とのつながりができ大事。 <p><u>【仕事との両立を目指す子育てママのネットワーク】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子育てママで仕事の両立をしたい方向けのゆるくて参加しやすいサークル、コミュニティを作る。 <p><u>【子どもの預かり等】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもを預けられる施設・場所を増やす。 ● 空き店舗を利用して子どもが遊べる場所を作る。 <p><u>【その他】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 女性が働くためのアプローチを続けていく。 	
--	--	--	--

シニアの就業	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯現役で活躍 	<ul style="list-style-type: none"> ● 退職後も朝来市で働くしかけづくり。 	
障がい者の就業	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会での活躍の場 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職業訓練。 ● 障害者雇用の推進。 	
外国人の就業	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人修了者の受入れ体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人就労者への情報提供、相談体制づくり。 ● 外国人就労の支援をしっかりと。地域の理解も大切。 	
多様な働き方	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な働き方の推進 ● 副業の推進 	<p>【インターネット活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● インターネットを活用した仕事の支援（教室、セミナー、仕事ができるスペースづくり）。 ● 人が少なくてもできる仕事（テレワークなど）の推進で、採算の取れる仕事を増やす。 ● 在宅ワークの推進。 ● 自宅でできる仕事。（高校生） ● サイトを利用したネットショップ。 <p>【副業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 副業ができるシステム。週数日農業をするなど、選択肢が広がる。 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ● ネット版での情報交流の場をつくる。 ● 地方で若者の誘致に成功している事例に学び、実践する。 ● 「なぜ働くのか」を色んな世代で話してみたい。（移住者） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者、女性だけでなく就職氷河期世代などにも対応した就職支援。 ● 女性が働きやすくはもちろんであるが、男性・高齢者・障がいのある方の皆が働きやすい環境とは何かを考える必要がある。 ● 大手だけでなく地元中小企業への支援の必要。 ● 環境変化を他人任せにすること。自身が変える意識を持たなければならない。（移住者）

2 農林業の振興

区分	キーワード	具体的な取組みアイデア・進めたいこと	進めていく上での留意事項等
農業の担い手育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な農業の関わり方 ● 多様な農業スタイル 	<p>【若者の農業者育成・支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若者のチームづくり（数名でのチーム編成）。 ● 新規就農者の生活支援。 ● 新規就農者の学びの場・情報共有の場づくり。 <p>【法人組織化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 営農組合を地域で作って機械をシェアする。 ● 農業の企業化（個人では投資が大変）。 <p>【多様な農業への関わり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 女性のグループづくり（登録制）。 ● 週4で働いてあとは副業で農業をする。 <p>【福祉との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ひきこもりの人などが農業に参加できるように。 <p>【学校との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 農林業を目指す人たちが来てくれるように交流する（興味のある人を逃さない）。 ● 福知山公立大学の活用（農業系ゼミのフィールドワークの受入れ） <p>【都市部からの農業者の育成・確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都市部に年間を通じた農業体験をPRし、体験をすることで移住して農業する人口を増加させる。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CSA 農業の導入。（移住者） ● 職業としての農家と小規模農家の両方の支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専業農家に固執しない。 ● 農業・林業に対する負のイメージを発信しないこと。（複数） ● 親や地域の人への何気ないネガティブ発言が地域を盛り下げる。（移住者） ● 農業に携わる子育て世代の女性が大変そう。 ● 若い方が農業をしない。 ● 脱サラして農業で食べていくことは留意。

<p>儲ける農業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 儲ける農業のイメージの共有 ● 販路づくり ● 販路拡大 	<p>【儲ける農業のイメージづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 儲ける農業のサンプルを提示する。 ● 農業成功者の見える化（儲けていることの情報発信）。（複数） ● 農業で生計が立てるモデルを作る。手本を作っしてほしい。 ● やり方次第で儲けることができる。（大学生） <p>【地産地消の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校給食に地元野菜をもっと使う。（大学生） ● 地産地消のしくみづくり。 ● 地元の飲食店でもっと岩津ねぎの料理を出してもらおう。岩津ねぎフェアなど。（移住者） ● 地域コミュニティになるような直売所の設置。（高校生） <p>【販路拡大に向けた情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 美味しい食材。売れるようにPR。 ● 「〇〇用」「〇〇料理用」と特化したアピール、売り方。（大学生） ● 動画を使った調整VTRでのPR（デリッシュキッチン）。 ● 農産物の詳細（味・におい・栄養…）を伝える工夫。 ● 岩津ねぎのPR方法の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業の給料収入と農業収益の比較の課題。 ● ただ拡大するだけの農林業。 ● 農家の大小と区別せずに。楽しく生きる方法としての農業もある。 ● 規格外の岩津ねぎも売れるように。 ● 販売先を制限する（農業へ売るのは当然）という意識をもつことは良くない。 ● 岩津ねぎのPR不足。 ● 「日本三大ねぎ」だとどんなねぎか伝わらない。「甘いねぎ」「子どもでも食べられるねぎ」などパッケージとキャッチコピーの工夫。（大学生） ● お米は作りより買って食べるほうが安く上がる。 ● お金の面だけで農林業の価値をはかること。（移住者）
--------------	--	---	--

		<p>【販路拡大に向けたブランド化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブランド農産物のアピール強化。全国的な知名度となるように。 ● 農産物のブランド化（誰に対して品物を売るかを明確に）。 <p>【販路拡大に向けたその他の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● JAに代わる新しい流通先の確保。適正な価格で大量に流通させてくれるものがあれば続けていける。（移住者） ● 農作物の販売を農協だけに頼るのをやめて、新しい売り方を見つける指導をしていく。 ● 日本で需要がないなら海外へ目を向ける。 ● 新たな新しい売り方。 ● メルカリを使って売る。収穫からライブ配信。 ● 岩津ねぎの多様な出荷方法（土つき、規格外の行先）。（移住者） ● 岩津ねぎの多様な出荷方法。（高校生） ● 岩津ねぎコンテスト。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 儲ける農業が楽しい農業となるようにコーディネーター役を市役所で。 ● 知識を持って新技術を使う（AI、ドローン）。 	
--	--	--	--

林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 林業の担い手育成 ● 木材流通の確立 	<p>【林業の担い手】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 林業の仕事の奥深さ（やりがいなど）をアピールする。 ● 農業と林業の兼業の推進。 ● 農業・林業を副業に。 <p>【林業振興のための木材の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 雑木林を燃料に。 ● 木・水など資源の豊富さを生かす。（大学生） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模林業は高コスト。災害の原因。 ● 間伐含め切りっぱなしの林業。（複数） ● 皆伐してそのままにしない。 ● 山が手入れされていない、土砂災害の恐れ。 ● 材木の輸出と輸入の関係の見直し。 ● 林業の拡大と山林の保護は別の議題。 ● 林業に対しての見通しが甘い。もっと課題を掘り下げ、把握が必要。
自立に向けた支援施策	<ul style="list-style-type: none"> ● 農林業の自律に向けた支援制度 	<p>【農林業者への補助金制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 初期投資に対する支援策。 ● 農業の機械への補助金。メンテナンスのフォロー。 ● 機械補助。（高校生） ● 補助金を増やしてほしい。（高校生） <p>【その他支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ベテラン農家の技術伝承。 ● 林業の資格取得の補助。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 何でもかんでも補助金を出すという政策。 ● 高コストだけの行政支援。 ● 借金と収益のバランスを農林業へも取り込む。
興味関心を育む	<ul style="list-style-type: none"> ● 農林業への関心・愛着を育む 	<p>【農林業を身近に感じる取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 農業の楽しさを知る機会をつくる。 ● トライやる・ウィークに農林業。（高校生） ● 田畑・林を愛する気持ちを育む（子どもの頃から）。 ● 1年間を通じて農業体験教室を地元の小学生から大人まで実施し、楽しい農業を理解してもらう。 ● 究極の食育。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 山（林業）への無関心。

情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 担い手育成・確保に向けた情報発信 	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 農林業の良さを発信する。(大学生) ● 気軽に始められる農業・林業のアピール。 ● 継続的な情報発信。 ● 市で SNS 専門員の設置。 ● 農林業して儲けることができる、楽しく生活できることを PR する。個人・会社だけでは無理なので市で PR を。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農林業の正しい知識を伝える場が必要。 ● PR 不足。(高校生)
観光との連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 体験型観光との連携 ● 土産物との連携 	<p>【体験型観光との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 薪割り・伐採・農作業等体験型観光。 ● 知識・技術を生かそうとする人がいる。(大学生) <p>【特産品・土産物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 土産物を朝来市で作る (農産物、加工品) ● 特産品づくり。 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ● IT の活用。 ● 放棄田の活用。 ● インスタ映えする農業 (花を植えるなど)。 ● 農業を大切に守ろう。田畑は大事。 ● 農業を楽しむ。 	

3 観光の振興

区分	キーワード	具体的な取組みアイデア・進めたいこと	進めていく上での留意事項等
観光客の誘致	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝来市を知る機会づくり ● 朝来市に行きたいと思える動機づけ ● 行きやすい・分かりやすい案内と交通 	<p>【朝来市に来るきっかけづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● まちを身近に感じられるイベントを増やす。(大学生) ● “食”をきっかけに観光も“ついでに”してもらえるような食のPR。 ● スマホゲーム等の位置情報を活用した集客。 ● 若者目線のものから観光へつなげる。(高校生) <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コトやモノをPRする。 ● SNSの活用(ツイッター、インスタ)した情報発信。(複数) ● 観光PRの手段を増やす(インスタ、ツイッター、ブログ)。 ● フォロワーの多いインスタグラマーが宣伝。 ● 国内・海外で観光PR。 ● フォトコンテストの開催。 ● 日本遺産をもっとPRする。 ● 竹田城跡・生野銀山・神子畑と連動してPR。 <p>【観光案内・看板】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 神子畑等道路案内に工夫を。 ● 観光地への案内看板。(複数) ● 観光資源を紹介する案内板の設置。(複数) ● 看板を大きく、わかりやすく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光客数だけをこだわりにしない。総合的に考える。 ● 案内が少ない。(複数) ● 知ってもらえていない。 ● SNSを見ていない。 ● 観光スポットが遠い。

		<p>【インバウンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外国人が分かりやすい多言語。 ● 外国人観光客に喜ばれる民泊、寺泊などの観光アイテムづくりとPR。 <p>【交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● R429を整備し、青垣・生野間のバス運行を可能に知る。 ● 黒川美人の湯について道を増やす。 ● 鉾石の道（姫路～養父）への交通手段・宿泊施設の充実。 ● レンタカーの利用。（複数） ● レンタルサイクル。 ● 移動手段の充実（レンタカーなどあるが知名度が低いのもっとPRを）。 ● ハイエースクラスの車で小回り良く移動できる公共交通の充実。 ● 観光地として道路補修や安全をしっかりと。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● さらなる観光資源の掘り起し。 ● 他の資源の発掘・活用（古墳、ハンザキ、但馬牛）。 ● 観光資源は十分。あとはどう生かすか（但馬牛、鍋料理、岩津ねぎ、古墳群、温泉）。 ● 観光ガイドから竹田城跡以外の観光場所をPRしてもらおう。 	
--	--	--	--

<p>観光消費の 拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費行動につながる情報発信 ● 体験型観光の充実 	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キャッチコピーをつくる。 ● 特産品（食べ物など）の情報発信。（複数） ● インスタで市内の特産品を広める（中高生にやってもらう）。 ● インスタ・ツイッターを使って情報発信。（複数） ● SNS・インターネットを活用し、地元でしか食べられないものをアピールする。（大学生） ● ネットでPR。 ● 観光予定者への朝来市からPR（観光のインプット）。 ● インスタ映えする看板（一緒に写真をとって広める）。 ● ストーリーを伝える。絵本で子どもに知ってもらえる。 <p>【体験型観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リピートしたいと思える体験。 ● 体験型観光の推進。（高校生）（複数） ● 体験型を増やす（川遊びなど自然満するなど）。（複数） ● 体験メニューを増やす（田舎の楽しさを知ってもらう）。 ● 体験型観光コンテンツの開発（オオサンショウウオ観察など）。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ガイドをボランティアでしない。（複数） ● 竹田城跡のガイド対応が悪いと感じたことがある。 ● 一つ一つの観光地をお勧めするのではなく、色々な面の案内を。（高校生） ● 観光公害への対策。（大学生）（複数） ● 新たな観光施設を作っていくこと。 ● 高級ビジネスホテル等の建設。 ● 宿泊施設の建設。古民家活用をする。 ● 観光消費があっても市外へ利益が流れている状況。 ● 観光消費額という大まかな捉え方ではなく、「食事」「土産」「入場料」等の細かな設定を。
---------------------	---	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ● 農業や地元の食などの体験型農業。 ● 子どもが喜ぶコンテンツ。 ● 古墳など体験型。 ● イベント体験。 ● モノの消費からコトの消費へ。(複数) ● 見る・食べるだけの観光にしない。体験型イベントの増加。 ● ハイキングコースの設置。 <p>【宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊を促すための夜のイベント開催（オオサンショウウオ観察会、夜のフォトスポットバスツアーなど）。 ● 泊まりたくなるような企画を考える。(複数) ● 宿泊者限定イベント（岩津ねぎの収穫体験、とれたて岩津ねぎ料理の実食）などにより宿泊客の確保。(複数) ● 体験メニューのひとつとして農家民宿などの宿泊体験を。 ● 寺泊・民泊の推進。(複数) ● 空き家を活用した宿泊施設。 ● 宿泊の充実（おもてなし、送迎など）。 ● 宿泊所を増やす（滞在時間を増やす）。 ● 宿泊客を増やす。チェックインまでの時間、美味しい食事、非日常空間での宿泊、朝方の提案をセットで提案。 	
--	--	---	--

		<p><u>【農業との連携】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 岩津ねぎを取りに行って食べる。 ● 岩津ねぎ、豆などの収穫体験観光。 ● 農林業の体験イベント。 <p><u>【食の充実】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地元食材の活用。 ● 地域食材にこだわった料理。 ● 地元野菜、食材を使ったレシピ作り。 ● 岩津ねぎコンテストのレシピが食べられるように。 ● 岩津ねぎしゃぶしゃぶ。 ● 限定商品の開発。 ● 但馬牛を使った料理の販売。(高校生) ● 朝来市内のものに特化した土産・名物料理の開発。 ● “食”をきっかけに観光も“ついでに”してもらえるような食のPR。(再掲) ● すき焼きの町で売り出す(但馬牛と岩津ねぎ)。 <p><u>【土産物等】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 但馬牛を使った料理レシピを商品につける。(高校生) ● 限定の商品。 ● 朝来市と言えばコレといったものを。 ● 土産物の内製化。 ● 朝来市の名物、特産品。(高校生) 	
--	--	---	--

		<p>【モデルコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光のモデルコースの作成。(大学生)(複数) ● 「グルメコース」何があるか分かるようにモデルコースを作る。(高校生) ● インスタグラムを何か所が併せて UP してもらうことで、お客さん自身がモデルコースを提案してもらうようなかたちにする。 ● 今ある観光資源を上手く回ってもらうしくみづくり(周遊バス、ナイトフォトツアーなど)。 ● 昼・夜の2部の周遊コースをつくる。 ● 観光ガイドの方や但馬検定合格者等に宿泊フロントで総合ガイドとしてコースを提案してもらう。 <p>【観光ガイド】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光ガイドの充実・スキルアップ。 ● 観光ガイドの育成。(複数) ● ガイド料を徴収する。 ● ガイド養成講習会を充実する。(複数) ● 中高生ガイドにより中高生の視点を観光施策につなげる。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人とのつながりができる観光で、最終的に移住につながる観光に。 ● リピート客をつくるように。 ● 高級路線(サービス、内容、単価)。(複数) ● 滞在時間を増やす。(複数) 	
--	--	---	--

竹田城跡	<ul style="list-style-type: none"> ● 竹田城跡と竹田のまちなかの連携 	<p>【竹田城跡を生かす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 竹田城跡でお金がおちる方法を。 ● 雲海予想。 ● 雲海職人の復活。 <p>【竹田のまちなか観光につなげる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 竹田のまちなかを含めたガイド。 ● 竹田城下町の町並みづくり。 ● 竹田城下町の雰囲気あるお店のづくり。(高校生) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブームを頼りにした戦略に乗り続けられるか。 ● 竹田城跡に特化しすぎることを。 ● 竹田城跡への過度な期待。限界を受け入れる。他でお金を落としてもらおうように考える。 ● 登山料のアップ。 ● 竹田城跡の閉鎖期間。(複数) ● 竹田城跡の冬季期間の活用。 ● 秋祭りのときに竹田城跡への入山規制などの硬直化した考え方ではなく柔軟な考え方を。
市民の理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民自らが魅力を発信 	<p>【市民自らがまちの魅力を発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地元の人たちがまずは観光資源を知ること。 ● 市民が観光客にまちの魅力を伝えられるように。 ● 朝来市内の観光地を中高生たちの授業で入れる。 ● 市民を巻き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民への観光への意識改革が必要。
体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● DMO の設立 	<p>【DMO によるスムーズな推進体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DMO をつくる。 ● 民間組織の意思決定の速さで観光推進。 ● 観光人材の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ● DMO のリーダーは長期に責任をもつ。
広域連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域連携による観光推進 	<p>【広域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広域連携を強化。(大学生)(複数) ● 市内だけでなく、市外の観光地も含めたツアー。 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ● ジュピターホールの活用(音響が良い)。 ● 地藏盆の花火を豪華に。 ● 全国ネギサミットの誘致。 	